

# NAGANO-KEN CLUB

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>  
jia-naga@jeans.ocn.ne.jp  
JIA 長野県クラブ



Vol.69

2006

03.28

## 最近「思うこと！」

総務委員長 丸山 幸弘

年度末になり、様々な地域の自治会や所属団体で決算・予算について議論する機会が多くなっています。

JIAでも本部、支部、地域会と迫って来ました。どの会も、このご時世余裕で決算・予算できる団体はありません。

先日も、地区の自治会に参加して感じたことがありました。皆さんの自治会でも同じ事が常に行われていると思いますが、少ない予算であれば、少ない予算なりの事業計画がなされ最初からマイナスの計画を立てる事はありません。また、今年が良ければそれで良い。といった場当たり的な計画を立てる自治会など有るはずがない。特別会計など何年か先を見越した計画があり、安心して地域で暮らすことができる自治会でなければならぬはずです。

ふと会議中に近年のJIA支部、本部の計画を思い出して「どうだろうか？」と当てはめてしまいました。今年どころか次年度の計画が見えてこない非常に不安な会になっているように思うのです。そう思っているのは私だけでしょうか？「会員が激減し、思った以上に収入がありませんでした。ごめんなさい。m(\_ \_)m！」特別予算を取り崩し？緊急拠出金？を徴収します。「何をやっているんだ！」と言いたい。

行き当たりバッタリの運営をしていいって良いのでしょうか？建築家と言われ社会的責任ある立場の集まりの会なのに・・・とつくづくがっかりします。日々、クライアントの資産を有効に活用できる設計をおこなっているのかと疑問に思います。今、見直さないとさらに傷を深くする気がしてしまうがいない。支部・本部は何を考えているのか？間に挟まれて、苦労なさっている、会長はじめ支部幹事の方々の苦労が痛感させられます。

まさしくこの機会に支部・本部の考え方を人ごとでなく会員一人一人が知り、必要によっては地域会で言わなければならないことはきちんと伝える必要があるのではないかと思います。もう少し会の事を知ることが大切と考えます。と偉そうな事を言っていますが実際、「皆さん～！助けて～！」と言うのが本音です。



信州松代ロイヤルホテル「文化講演会会場」



169人の参加者が集った講演会会場

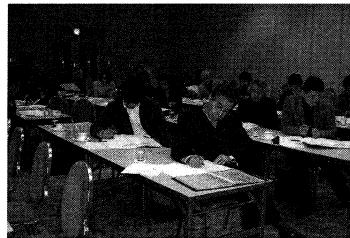


真剣に作品を見る「学生卒業設計コンクール」審査風景

## 勉強会に参加して(設計監理契約書について)

かつやま設計工房 勝山 敏雄

建築家は、建築主の「夢」を「かたち」にする仕事をしています。この一文は建築家のあるべき姿ではないかと思います。建築主と建築家の出会いから完成するまで、互いに信頼を得て、お互いの夢をかたちに変えていく。また、完成後も長く良き関係が築かれていくことが本当は良いと思います。しかし、今は



設計監理料金をきちんと理解してもらう  
「設計監理契約書」の勉強会

何が起こるかわからない現実があります。なんらかの原因で信頼関係が崩れてしまったとき、設計料が支払われないことや、完成したあとのクレーム処理、訴えられるケースも耳にします。万が一の場合に備えて、契

約書や書類を整備しておくことが重要であることを学びました。最悪の場合、法的な手続きをとらざるを得ない状況になる可能性があり、日常的に備えが必要であると思いました。

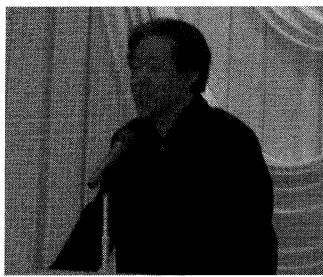
今回の勉強会で、自分の業務の中で今後活かしていかなければならないことがいくつかありました。建築家の業務は委託契約であり、委託者、受託者それぞれの責任を明確にしておくこと。事務所は法人にすべきであること。設計に対しての訴訟問題に関しては個人であればその責務が相続されてしまい、個人の資産に多大な影響を及ぼしかねないことがあります。等、色々勉強になりました。



## 「内藤廣さんの講演会に参加して」

まちづくり副委員長 西沢 広智

私が内藤廣さんを知ったのは、新建築に「海の博物館・収蔵庫」が載った時でした。建築雑誌に取り上げられる多くの作品の中で、特別記憶に残った作品でした。薄暗い洞窟のようなプレキャストの空間が大変印象的だったのを今も思い出します。



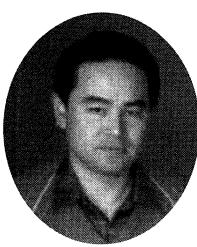
内藤廣先生 地方の文化「宝」をさがし、文明の共生のお手伝いをすると語る

そんな折り、JIA文科講演会で内藤廣さんのお話を伺えるということで、大変楽しみにしておりました。

話の冒頭、今のミニバブルに巻き込まれている建築界に警鐘を鳴らし、「直感でおかしいと思ったら、言うべき時に言うことが必要だ」と超高層のビル

群を例に話をされました。

「島根県立芸術文化センター」は、見本張りを観て職人達が一番驚いたという屋根、壁の石州瓦、構造、音響を考えつくし、たどり着いた折版構造の打ち放しコンクリートの空間に圧倒されます。財政難から、工事費を2割も削減する難題に正面から向き合い、モノの本質を見極めすればらしい作品に昇華させた凄さを改めて感じました。是非、島根を訪れ実際の空間を体験したいものです。海の博物館当時から、一貫して追求している素形の美学は、時を超えたモノの本質に迫るものがあり、島根県立芸術文化センターはまさにこの信念が貫かれていると感じました。



## 内藤廣先生の講演をお聞きして

綿半鋼機(株)長野支店 山本 一幸

長野市の今井ニュータウンの御設計をされた偉大なる建築家の一人として以前より内藤先生の御名前は記憶に残っていました。挫折も無く現在の名声を得られた方かと勝手な想像をしつつ講演を拝聴しました。講演の中で「30代では非常に苦しみ、40代では激しい戦いを繰り広げ、一時事務所を閉鎖しゼロからの出発として住宅の設計からやり始めた」とのお話があり、ある面ホッとしたしました。

微力ながら建設に携わる人間として「東京の下町の崩壊」「バ

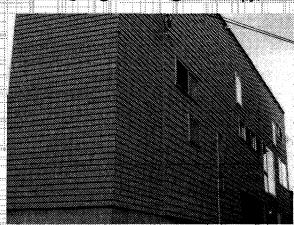
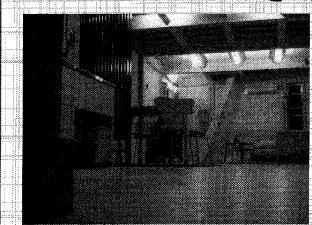
ブル期の高層ビルの建設ラッシュ」等、クラッシュ&ビルドに馴れっこになっていた自分にハタと気がつき次世代のテーマとして重く受け止めた。

「島根県芸術文化センターの外壁に地元の瓦を採用」の内容につきましては、建築に対する熱い思いが伝わってくる内容の濃い講演であり、貴重な講演に参加させて頂き感謝致します。



Patio  
パティオ  
[中庭]

多くの方に声をかけて頂き見に来て頂きたいと思っています。  
もあるので、遠慮なく味わいなどを実感してもらいう良き機会です。建築家とつくつた建物において感じたことから、建築関係者を始め、地域の方なども興味を持つて見て頂いている様



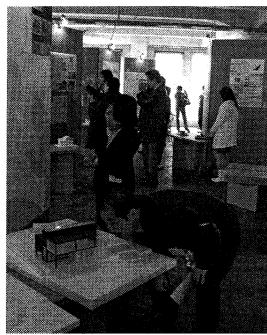
建築家とつくつた家  
賛助会 岸本貢志

JIAの活動に参加しながら建築家の作品や話題に刺激を受け、そのような環境下で自分自身の家づくりが出来たことを嬉しく思っています。持ち家について計画的に考えてきたわけでもないのですが、すばらしい建築をたくさん見聞きするつづり夢だけは膨らんでいました。諸条件が揃ってしまえば決断に迷うことはありませんでした。その後は、プランの段階から相当のやりとりをした筆句にとても面倒な図面を描いて頂くことになってしまったり、予算的にムリがありながらも理想は高く、当賛助会の仲間に助けて頂いたりと、お願いばかりしなんとか完成。こうして出来上った建物ですが、外観上も周辺の景観に配慮しながらも個性的であり、旧街道沿いの目立つ場所にあることから、建築関係者を始め、地域の方なども興味を持つて見て頂いている様

## 第1回JIA北関東甲信越「学生課題コンクール」及JIA群馬クラブ「学生卒業コンクール」審査に参加して

副会長 西沢 利一

前橋の街並には清潔感があった。会場の旧麻屋呉服店（戦前一昭和9年竣工）の唯一現存するRC商業施設を、やっと探し当てた。審査委員長は青木淳氏、それに関東甲信越支部長の松原氏、以下各県（群馬、新潟、栃木、山梨、長野）からJIAの代表が審査にあたった。すでに会場は学生達であふれていた。100人は軽く超えていただろう。



青木審査委員長 審査風景

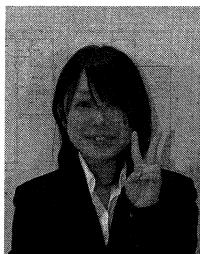
午前中は「課題コンクール」の方で、前橋工科大学、フェリカ学園、新潟大学、長岡造形大学、新潟工科大学、新潟職能短期大学、信州大学、宇都宮大学、足利工業大学、小山高専、筑波大学、文化大学の12の学校の42作品を審査した。結果だけ言うと、金賞は筑波大学の須田牧子さん、銀賞は前工大の黒田由祈子さん、銅賞は信大の藤田真理子さん、に決まった。また支部長賞、各県JIA賞をそれぞれ選んだ。力作揃いで審査も楽しかった。

が、女性特有の迷いの無いパワーを感じた。午後は、前工大の卒業設計14作品を審査した。学生達のエネルギーの密度の高さに感心しながら作品群を見入った。こちらも、それぞれ金、銀、銅、審査委員長賞を選んだ。それにしても、青木淳さんの記憶力には恐れ入った。全ての作品を細部にわたり覚えている。私の講評のとき、何回も助けてもらって窮地を救われた。また決して作品をけなさない姿勢にも好感をもった。

「西沢さん、煙草を吸いに行きましょう！」気取らない人柄が気に入つて、話しこみでしまう。審査を終わって、近くの喫茶店のホールで表彰式と青木さんの講演会が行われた。その時はもう、新作JINの外壁の白いパンチングパネルの画面がかすんでき、青木さんの正面で睡魔に抵抗しながら船を漕いでいた。

### 感想文

信州大学 藤田 真理子

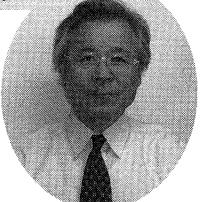


今回の住宅の課題は、建築の勉強を始めて半年くらいの頃の作品です。まだ何もわからない状態で、とにかく自分が『こうしたい』と思ったことをどのように形にし、図面に表せばいいのか何度も先生方にエスキースをしてもらいました。エスキースを受けるにつれて、自分の頭の中でイメージしていたものがどんどん形になっていくのはとてもおもしろく、あらためて建築のおもしろさを実感しました。更に、今回の課題コンクールで銅賞をいただきこれからの自信につながりました。

私の大学は近くに有名な建築物や大学が少なく、自分で見に行こうという意志が強くなければ見る機会がありません。けれど今回課題コンクールに出展でき、他の大学の方々の作品を見ることができたのはほんとうに良い機会となり、また良い刺激を受けることができました。この気持ちを忘れずに、これから課題、卒業設計などがんばりたいと思います。

## 第15回 学生卒業設計コンクール

事業委員長 荻原 白



3月12日(日)学生卒業設計コンクール公開審査会を実施しました。参加校は、大学1校、専門学校1校、高校4校の参加で35作品、会場一杯に展出されました。

一次審査は事前に各作品を下見した審査委員が作品前で待機している学生に直接ヒアリングを実施。二次審査は持ち時間5分で、各人の作品をプロジェクターでプレゼンテーション。この後審査委員による各作品評価点を纏め最終審査に入った。最終審査は各部門(大学・専門学校・高校)より上位5作品を



最後までわからない? プrezen風景

### 審査に参加して

初めて審査に参加させていただきました。審査結果と総評・表彰式の様子は次回の会報に掲載予定ですので、ここでは個人的に感じたことを述べてみたい。

出展作品は、大学・専門学校・高校とそれぞれの傾向はあったが、大学・専門学校の学生本人とのヒアリング、個々のプレゼンテーションは大変有意義だと思った。図面や模型による表現だけでなく、学生時代の集大成としてひとりの人間が何を考え何をしたかったのかを熱く語れる場もある。格好よくなくてもいいので人間味が伝わってくるとホッとする。限られた時間内で設計の意図を的確に表現できるかどうかも採点に加味した。唯一残念だったことは、作品出展だけで当日のプレゼ

ンテーションに不参加の学生が多かったこと。行動を起こさないと何も始まらない。

大学の部は、最後に大どんでん返しにて金賞が決まった。まさに筋書きのないドラマのようだったが、それだけ建築の評価は難しくて主観的な要素が多いということでもある。県内の学生たちは卒業後どんな道へ進むのだろうか。若いエネルギーを建築に思いっきりぶつけてほしい。朝から夕方までがあつという間に過ぎた。帰りの車の中では、なぜか今の自分自身のことを見つめ直していました。いい経験をさせていただきました。

広報委員長 林 隆





保存問題に関わるようになってから、「文化」とは何なのだろうか?とりわけ「地域文化」や「建築文化」に关心を持ちつづけてきた。残念ながら現在のところ「建築文化」等について明快な考えは持ち合わせていない。つまり、まだモヤモヤの段階という事である。そんな状態ではあるが、とりあえず私が今考えていることを述べておきたい。

「文化」とは、私たちが経験や学習によって身に付けた生活の仕方や知恵といったもの(信条、理想、心意気、美学、美意識等)であり、またそれらが育んできた技術、学問、芸術、宗教等の全般にも存在する。

このように考えると、「文化」とは多様で多岐にわたり、地域の大小も様々である。また時代の変化に伴い「文化」も変容せざるを得ない場合もある。

現代とは地域の領域はボーダーレス化し、文化を語れない建築が氾濫する時代である。そんななかで辛うじて生き延びてきた地域にある建築群が消滅の危機にある。どうしたらそれを救えるのか?みんなで語り合う目的で始められたのが、「保存問題地域大会」である。毎回シンポジウムで交わされる議論は大同小異で、取り壊したいとする側の論理は「時代に合わない」「構造的に危険である」「経済的

に無理である」が常套句となっている。それに対し、安易な合理主義や坪井主義が跋扈する時代に抗い保存を訴える側は、「持続可能な技術論」や「地域固有の美学」そして「よき時代の心意気」といった「文化論」を展開する。そのため両者が折り合える接点がないままシンポジウムは終了するのが恒例であった。つくば市で行われた今回の「茨城大会」において、いつもと同じ様な流れになった時パネリストのひとり野堀敬香子さんが以下のような発言をされた。「どうして(建築家の)みなさんは難しい話ばかりするんですか?大事なのは住んでいる人の気持ちでしょ。私は縁あって嫁いできたつくばが大好きです。100年以上たって不便な処もありますが、素敵なおもいいっぱいあります。私はここで楽しく暮らして、子供や孫にこの家を残していく。」上智大出のキャリアウーマンであった野堀さんはつくば市に来て以来、地域にある豊富な食材を使った創作料理をとおして地域の「食文化」を広げる活動をしているそうである。

建築家が語る「建築文化」は、とかく「作品論」に陥りがちである。元来「文化」とは生活者によって育まれてきたものである。そう考えると野堀さんの意見がもっとも素朴でありながら、説得力があり印象に残る言葉であった。

「保存問題地域大会」も原点に帰るべき必要を感じながら、同時に私の中でモヤモヤしていたものがスッキリそうな予感を感じた大会であった。

## 品格のある倫理観を…



最近の話題作である藤原正彦著『国家の品格』の中で、「品格には高い道徳観や倫理観が必要である。日本人は古来の善徳や品性をもっている。」と勇気付けられます。

私たち建築に携わる者も、今の厳しい状況下で、改めて、深く考えさせられます。

昨年末からの耐震偽装問題を始め、建築業界を取り巻く様々な問題は、専門家の誇りと品格を疑うものとして明らかにされました。その根底にあるのは、専門家としての職能倫理観の欠如に他なりません。(高い職能倫理観の確立を一既報参照)こうした状況から、一般消費者に代表される社会は不安と不信を募らせているのです。

現在、問題の解決と信頼回復に向けて、各方面で新たな制度を模索しています。しかし、法的規制や仕組みの改善だけでなく、根本的に、道徳観や倫理観で規制することができなければ、失った社会の熱い信

## 会長 高橋 重徳

頼を取り戻すことができないと思われます。

私たちは、自らの努力によって、人間性を含めた総合的な能力(感性)を身に付けることが益々必要になるでしょう。その能力とは、専門家としての技術的侧面や論理的知識にとどまることなく、仕事に対する責任感や使命感、誇りや志を保持していることを意味します。私たちは、そのスタンスで正面から取り組み、幅広い知識の修得と日々の実践と体験を通じ、謙虚な姿勢で一層のレベルアップを求めるべきではありません。

本来、品格のある倫理観の形成には個人の努力とともに、自分を取り巻く社会や、共通の目的を志す仲間から受ける影響は大きいです。従って、今後とも、すばらしい仲間の出会いとレベルの高いコミュニケーション活動が特に必要になると思われます。

JIAの責務は、その仕組み(登録建築家制度)と方法(継続職能研修制度)をより積極的に活用していくことが大切であり、会員にとっては高い目標を達成できる一番の近道かもしれません。

## 広報活動について



広報委員会では従来からの「会報・ニュース」の発行並びに各委員会活動の広報面でのお手伝いを通じて会員相互の意思疎通をはかる」ことに加え、「JIA活動を広く社会に認知してもらおう」という新しいコンセプトを前期からの継続目標の一つに据えて、活動を行ってきました。

前段の活動では、執行部からの一方的な情報の流れを作るだけでなく、会員の皆さん一人一人の思いや要望ができるだけ表明して頂く機会を設けようと、会報やニュースの紙面の中できできるだけそういったスペースを割くべく、挑戦してみました。

## 広報担当副会長 赤羽 吉人

まだ十分とはいえないが、今後もこの方向性は維持していくべきだと思います。

後段の活動については、新しい分野と言うこともあって、なかなか思い切った活動には移れませんでした。クライアントを含め、会の外側で私達の活動を理解し支持して頂ける人たちの輪を広げて、JIA親派となって頂くことが、これからJIA活動の中で大きなウェイトを占めることになると思われますが、そのための広報活動はどうあるべきかについて、引き続き研究していこうと思います。

ホームページの充実、メディアによる広告宣伝についても、真剣に取り組んでいます。林委員長、委員の皆さん、事務局の山本さん、重ね重ねご苦労様でした。

### 編集後記

広報委員会として1期2年にわたり8回の会報を発行させていただきました。多くの方に原稿をお願いしましたが、多くお引き受けいただきありがとうございました。一度も断られなかったことは何よりも嬉しい思っております。この会報はJIA長野県クラブの中での情報源としてだけでなく、今後一般市民に向けて何かを発信できないものかと思います。

広報委員長 林 隆

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

編集人/林 隆 発行所/JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303

発行人/高橋重徳

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/> E-mail [jia-naga@jeans.ocn.ne.jp](mailto:jia-naga@jeans.ocn.ne.jp)